

新たな100年につなぐ 安全への取り組み

～「東南海・南海地震」を想定した総合防災訓練を通して～

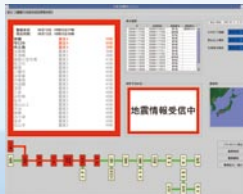
地震やゲリラ豪雨などの自然災害は、いつ発生するか予測できません。京阪電車では、突然の災害でもお客さまの安全を速やかに確保し、被害を軽減するために、毎年、総合防災訓練を行っています。平成23年2月には総勢136人が参加して「東南海・南海地震」を想定した防災訓練を実施しました。ここではその訓練を通じてお客さまが安心してご利用いただけるように、京阪電車の安全への取り組みの一端をご紹介します。

◆総合防災訓練

14:05

地震発生

気象庁の緊急地震速報を受信。列車無線で自動的に全列車に通報され、運転中の列車は大きな揺れが到達するまでに危険箇所を避けて緊急停止させる。



14:06

指令一斉電話、対策本部設置

大阪・京都・滋賀で震度5以上を観測し、指令電話で駅、運転、工務、電気、車両、大津の全部署に一斉配信。本社に対策本部を即座に設置し、要員を召集する。



14:07

安否の確認

駅では避難誘導を行うとともにお客さまの安否を確認する。列車では地震の揺れを感知した後、すぐに車内放送を行い、お客さまの安否を確認する。異常があればただちに対処するとともに、対策本部に報告する。



14:09

点検開始

乗務員は状況を確認し、異常があれば運転指令者に報告。技術各部署は、駅施設、線路・転つ機(ポイント)、構造物、変電設備、信号や踏切の保安設備などの点検をする。



14:15

お客さまへの案内・情報収集と共有

駅では、駅放送、ポスターの掲示などで点検実施中の案内をお客さまに伝える。列車では、点検実施中の案内放送を行うとともに、停車列車の車両を点検する。その状況を対策本部へ連絡し、情報を共有する。



14:20

各部署から点検状況の報告を受ける

各部署から点検の進捗状況の報告を受け、対策本部では安全確認の状況を把握。駅近傍で停車中の列車は、駅構内への移動を検討する。



平成22年度 総合防災(地震)訓練概要

●実施日時

平成23年2月24日(木) (訓練:14時00分～15時15分、講評:16時15分～17時00分)

●想定した地震と訓練の目的

平成23年2月24日(木)14時05分、和歌山県～三重県沖を震源とするマグニチュード7.8の地震が発生(「東南海・南海地震」を想定)。大阪府・京都府南部で震度5強、滋賀県南部では震度5弱(中之島変電所、蒲生変電所、枚方変電所、淀変電所、東福寺変電所、三条変電所警報レベルⅢ)、(四宮変電所、滋賀変電所警報レベルⅡ)を観測。津波警報の発令はなし。

導入した早期地震警報システムで、気象庁から配信された速報メッセージを列車無線で自動的に各列車に発信。列車を緊急停止させ、被害の軽減を図る。かつ、地震による被害発生を受けるおそれがある

場合には、「東南海・南海地震防災対策計画〔細則〕」に則って、速やかに対処する。防災体制の確立、情報の収集・伝達、避難対策などの対応能力と防災意識の向上を図り、迅速かつ的確に実施されているかを検証する。

●訓練会場と担当部署

- ・本社に対策本部および想定中書島駅を設置。担当は経営統括室・広報宣伝担当、安全推進部、鉄道営業部、工務部、電気部、車両部、大津鉄道部、中之島高速鉄道(株)
- ・寝屋川会場(寝屋川車庫)に車両部、大阪列車区
- ・中書島事務所会場(運転指令)に鉄道営業部の運転課、運転指令、駅サービス課、京都列車区、工務部の技術課(土木)、保線課、電気部電気課
- ・大津会場(錦織車庫など)に大津鉄道部

●参加人員

計136人